

課題名	43 北部九州汎用化水田における水稲及び 主要転作作物の高品質生産技術の確立	分類	③
	重粘土地域における大豆後作小麦の生育・収量		
試験研究年次	63～2年(完了)		
I 目的			
重粘土地域における大豆後作小麦の品質向上と安定生産を図るための効率的な肥培管理技術を確立する。			
II 試験方法			
1 試験実施場所	筑後分場圃場及び現地圃場(城島町、63年のみ)		
2 供試品種・系統	農林61号、ニシカヒコムキ、シカネコムキ、西海168号		
3 施肥法(Nkg/10a)	大豆後…3+3(4)+2、0+6(7)+2 水稲後…5+4+2		
4 播種時期	標準播…11月3～5半旬 晩播…12月1半旬(大豆後のみ)		
5 播種量(kg/10a)	大豆後…5～6(標準播)、7～8(晩播) 水稲後…6～7		
6 播種様式	畦立ドリル播(畦幅140cm、1畦4条)		
III 主要成果の概要			
1 重粘土水田転換畑の大豆後作麦において、窒素施肥量及び播種量を減じることによって小麦の過剰生育を抑制し、倒伏程度を軽減することが可能である。			
2 施肥方法は3回に分けて分施する方法が生育・収量ともに優れ、出芽後に基肥及び分けつ肥を同時に施肥する2回分施肥は多雨年次には葉色が淡く推移し、莖数の確保が困難となり収量が低下する。			
3 大豆後作小麦で下葉の枯れ上がりが早く、粒の充実が不良となり、収量・品質に影響する障害が発生した。なお、障害の発生様相は、4月中旬頃から下葉が枯れ上がり、5月上旬には穂枯れ症状を呈した。  この枯熟れ様障害には品種間差が認められ、農林61号では発生が少なく、西海168号では最も発生程度が大きくシカネコムキ、ニシカヒコムキにも中程度発生する。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 前作の違いと小麦の生育収量及び検査等級(11月3~5半旬播)

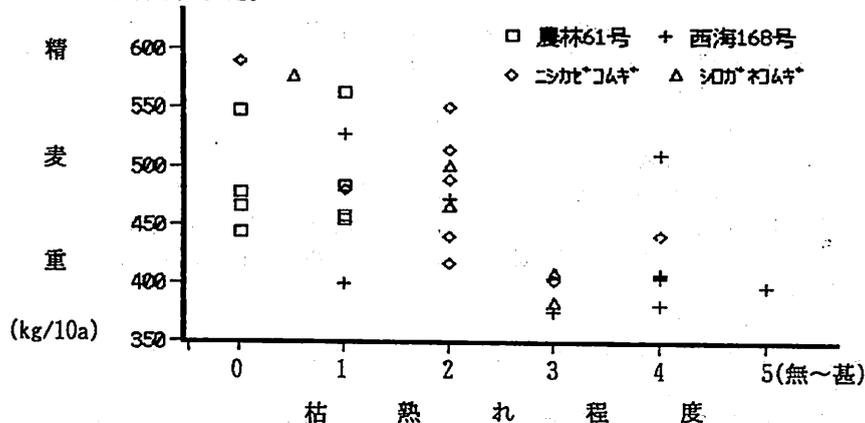
年次	前作	品種	出芽数 m <sup>2</sup> /本	穂数 m <sup>2</sup> /本	倒伏	千粒重 g	精麦重 kg/10a	検査等級
63	大豆	農林61号	110	404	2.0	32.5	483	2中
63	水稲	"	150	475	2.7	32.1	491	2中
1	大豆	農林61号	105	445	1.3	30.9	470	2下
1	水稲	"	150	470	1.2	36.8	576	1上~中
1	大豆	シカキコキ	138	463	0	32.2	589	1下
1	水稲	"	150	528	0	35.3	642	1上
1	大豆	シカキコキ	91	463	0	32.2	577	2上~中
1	水稲	"	150	488	0	34.0	572	1上~中

注) ①大豆後は、水稲後の基準施肥量より窒素を2kg/10a減じた。  
②水稲後のm<sup>2</sup>当たり出芽数は出芽後150本に調整した。

第2表 大豆後小麦の播種期及び施肥法と生育・収量・品質(農林61号)

年次	播種期	施肥法 kg/10a	出芽数 m <sup>2</sup> /本	莖数 m <sup>2</sup> /本	穂数 m <sup>2</sup> /本	倒伏	千粒重 g	精麦重 kg/10a	検査等級
63	11.15	3+3+2	111	603	429	2.5	32.9	512	2中
	"	0+6+2	105	573	378	1.5	32.1	454	2中
	12.1	3+3+2	119	652	414	1.0	32.2	410	2下
	"	0+6+2	138	532	300	0	30.9	275	2下~規外
1	11.22	3+4+2	98	553	412	0.5	31.3	457	2下
	"	0+7+2	112	536	478	2.0	30.4	483	2下
2	11.22	3+4+2	101	621	439	4.0	31.2	412	規外
	"	0+7+2	102	605	441	4.0	31.8	418	規外

注) 1年及び2年の12月播は乾燥のため出芽が極めて不良であったのでデータを除外した。



第1図 大豆後作小麦における枯熟れの発生程度と精麦重との関係

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 高品質麦生産のための栽培技術改善及び品種選定の参考とする。
- 2 枯熟れ様障害は従来の枯熟れとの区別が不十分である。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 大豆後作麦の出芽率向上対策。
- 2 枯熟れ様障害の発生原因の究明と障害回避技術の確立。

VII 資料名

63~2年度 福岡県農業総合試験場 筑後分場 普通作物研究室  
麦作試験成績書